

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

## 事業名 森林・山村多面的機能発揮対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 恵みの森づくり推進課 緑化推進係

電話番号：058-272-1111 (内 3031)

E-mail：[c11513@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11513@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 1,437 千円 (前年度予算額：1,437 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県債	一般 財源
前年度	1,437	1,437	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,437	1,437	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・森林の有する多面的機能を発揮させるため、地域の活動組織 (地域住民グループや地域と一体となった活動を行う NPO 等) が実施する里山林の保全管理や山村活性化に資する取組に対して国が活動交付金を交付し支援する。
- ・県は活動組織に対して指導、助言等を行うとともに、市町村の事業推進指導等に対して推進費を交付する。

### (2) 事業内容

- ・県推進費  
県が実施する地域協議会の設立支援、市町村への周知、  
(必要に応じて) 活動組織への周知・指導・助言
- ・市町村推進費  
事業の推進・指導、森林所有者と活動組織との協定締結の支援及び認定、  
活動組織の規約制定の支援、活動組織への指導・助言

### 【活動交付金の内容 (国が地域協議会を通じて交付する)】

- ・地域環境保全タイプ  
集落周辺の里山林を維持するための保全・整備活動、高密に侵入したモウソウ竹等の竹林の伐採・除去や利用に向けた取組
- ・森林資源利用タイプ  
集落周辺の里山林に賦存する広葉樹等未利用資源を地域の生活のために利用することを目的とした木質バイオマス、炭焼き、しいたけ原木等の広葉樹等未利用資源の供給及び活用
- ・森林機能強化タイプ

- ・機材及び資材の整備  
事業実施のために必要な機材及び資材の整備
- ・補助率  
定額（1/2又は1/3相当）、（1組織当たり500万円を上限）

(3) 県負担・補助率の考え方  
市町村指導監督費（国庫補助事業）

(4) 類似事業の有無  
無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	237	業務旅費
交付金	1,200	市町村推進費
合計	1,437	

### 決定額の考え方

### 4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・長期構想  
IV-1 森・川・海をつなぐ清流とふるさとの自然を守る  
・森林がもつ水源かん養機能など多面的な機能を維持・増進し、健全で豊かな森林をつくる取組を進め、岐阜県の自然と水源を守る。
- ・第三期 岐阜県森林づくり基本計画  
1 健全で豊かな森林づくりの推進  
3 人づくり及び仕組みづくりの推進

(2) 国・他県の状況

事業の実施主体となる地域協議会が、47都道府県で設置されている。  
(令和2年3月現在)

(3) 後年度の財政負担

なし。

(4) 事業主体及びその妥当性

国の要綱に沿って、岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会を、事業主体として設置している。

# 事業評価調書

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業            |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・里山林の資源を活用した活動に継続的に取り組む団体を育成する。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
里山活動実施団体数	— (H24)	(H )	(H )	24 (R1)	50 (R3)	% 48
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### (前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・地域住民等が主体となった活動組織24団体が里山整備、竹林整備などを実施している。

### (前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・手入れ不足や竹の侵入により荒廃した里山林などに地域住民などによる手入れがなされ、森林の多面的機能が発揮されるとともに、地域住民による里山林の保全管理や森林資源の利活用の実施により山への関心が高まってきている。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>森林の多面的機能を持続的に維持発揮させていくためには、山村地域の住民が協力して里山林等の保全管理や森林資源の利活用を実施していく体制を整え、山村において地域コミュニティの形成を図り、「日本再生戦略」に掲げられている地域力の向上を実現することが不可欠なため、活動組織に対する支援は必要性が高い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
<p>(評価) △</p>	<p>地域が主体となった24団体が里山整備を実施しているが、目標団体数には及んでいない。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>国から地域協議会を通じて直接活動組織に交付される予定であり、効率化が図られる計画となっている。</p>

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施にあたり、活動組織が行う活動内容、方法、活動経費の使用方法などについて、地域協議会、市町村から活動組織に対して指導する必要がある。</li> <li>・活動団体の高齢化により、活動を行うことが、困難になりつつあるため、地域協議会、市町村の協力のも若返りや支援が必要である。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山村地域の住民が協力して里山林等の保全管理や森林資源の利活用を実施していく体制を整え、山村における地域コミュニティの形成を図り、「日本再生戦略」に掲げられている地域力の向上を実現することが不可欠なため、当事業を推進する。</li> </ul>
---